

第1回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」のレポート

第1回「医療・介護連携 顔の見える関係づくり交流会」を、平成29年1月18日(水)に中道公民館にて開催しました。当日は138名の方にご参加いただきました。



会場の様子



相良 福祉保健部長

最初に、主催者挨拶として甲府市福祉保健部 相良部長が、「本日の交流会は、医療と介護の両方の支援を必要とする方の増加が見込まれる中、多職種が互いの専門性を理解し、患者や利用者のことを同じ視点から考えることができる『顔の見える関係づくり』を目的に開催すること、また、地域包括支援センターのエリアごとに今後も継続して開催するので、引き続きご協力をいただきたい」と挨拶されました。

続いて、座談会へと入りました。

今回は山梨県立大学の佐藤悦子先生にコーディネーターをお願いしました。

佐藤先生から「『顔の見える関係づくり』に向けて、今日の交流会ではお互い出来ることをざっくばらんに話し合い、他の職種の役割や支援のアプローチを学んでいきましょう」と参加者に向け挨拶されたあと、さっそく各グループで自己紹介をしました！



コーディネーター
佐藤 悦子先生

最初に名刺交換を行い、グループで和気藹々と話し合いが始まりました。



自己紹介は顔の見える関係をつくるための第一歩！

その後、事例紹介をはさみ、座談会へと移りました。

本日の座談会では、「末期の膵臓ガンを患った高齢者が在宅で生活するために、自身の職種ではどのような支援ができるか、また他職種とどのような連携を図っていききたいか」について、話し合いました。



各グループでの座談会の様子

どのグループもそれぞれの職種の意見を聞き、多職種連携について真剣に考えました。



各グループでの座談会の様子

座談会が終わると、3つのグループに発表をしていただきました。



発表の様子

第3グループでは、「今回の座談会のように多職種で話し合っ
て目標を決めると、その目標に向けたそれぞれの職種の役割が
はっきりし、支援がしやすい」といった意見をいただきました。

第5グループでは、「多職種での連携ももちろん大切だが、
近所の方々など支援に直接介入しない人とも、つながりを持つ
ことが必要」といった意見をいただきました。

第12グループでは、「職種によって役割や専門性がそれぞれ
違うが、患者・利用者支援していくという点では同じ気持ち
なので、このような顔の見える関係は必要」といった意見を
いただきました。

最後にコーディネーターの佐藤先生から、「この交流会を機に医療職と介護職がさらに連携を
図り、地域包括ケア体制の構築に向け、今後も一丸となって頑張っていきましょう」とまと
めていただき閉会しました。

参加者に行ったアンケートでは、「他の職種から視点の違うさまざまな意見を聞くことができ、とても勉強になった」、「顔の見える関係づくりの大切さを実感した」、「このような交流会を今後も定期的に開催してほしい」といったご意見やご感想をいただきました。

今回の交流会では予定していた定員を上回る参加者の方々にお越し頂き、おかげさまで盛況のうちに無事終了いたしました。
多くの皆様のご参加ありがとうございました！

本日の交流会を契機に、「顔の見える関係づくり」から「話ができる関係」、「信頼できる関係」へと交流を重ねることにより関係づくりを構築して参りたいと考えておりますので、専門職の皆様のご協力をお願いします。



第2回は、2月18日(土)午後2時から、ぴゅあ総合 大研修室にて甲府市東地域包括支援センター（琢美、東、富士川）を支援地域とする医療・介護関係者向けに開催いたします。

2月6日(月)まで参加を受け付けておりますので、皆様お誘いあわせのうえぜひお申し込みください。

第1回を上回る活発な専門職の交流ができるよう皆様の参加をお待ちしております！！

